

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531247

研究課題名(和文) 単元デザイン作成過程において表出・創造される教師の実践的知識解明に関する研究

研究課題名(英文) a case study to clarify the teacher's practical knowledge of emerging from the process of creating unit plan

研究代表者

石上 靖芳 (ISHIGAMI, Yasuyoshi)

静岡大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：50402227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000 円

研究成果の概要(和文)：教師の単元デザインに関する実践的知識の分析を行った結果、(1)社会科の単元に卓越した熟練教師ほど、過去の経験から獲得された教授方略及び、学習内容と教授方略が融合した複合的な実践的知識を豊かに保有している。(2)複数の教師による対話から、単元デザインに関する様々な教授方略が豊かに交流・表出された。(3)対話プロセスから「単元の全体と部分の関係を調整する」など、単元デザインをモニタリングしている高次の知識を保有していることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the teacher's practical knowledge of emerging from dialog with colleagues and to arrange the emerged data. The process of creating historical unit plan of elementary social studies from dialog with colleagues was recorded with IC recorders and analyzed. As a result, it became clear the following:

(1)The teacher who has expert knowledge in social studies has richly content knowledge and pedagogical content knowledge. (2)In the process of creating unit plan from dialog with colleagues, the practical knowledge was richly emerged and was exchanged. (3)The expert teacher has meta knowledge that monitors unit plan. For instance, they are the following: "knowledge for entire unit plan and the part are modified"; "knowledge for information is inductively arranged"

研究分野：教師教育

キーワード：教師 実践的知識 単元デザイン 授業研究 事後検討会

1. 研究開始当初の背景

一人一人の教師が生涯にわたり、力量形成を図るために知識・技能を更新し技量を高めていく1つの方法として校内授業研究がある。校内授業研究は、戦前から継承されているとともに我が国の教育水準を維持している稀有のシステムであると世界から注目を浴びてきた。しかし、教師の多忙化や学校を取り巻く社会的環境の変化から形骸化しているとの指摘も成されている。教師の大量退職時代を迎え、個々の教員が持っている授業実践に関する実践的知識を共有し、その継承を図ることが各々の学校にとっては喫緊の課題となっている。校内授業研究を通して、教師自らが所有する授業に関する実践的知識を同僚との対話により指摘し合い、交流させることで表出される実践的知識を具体的に明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

第一に、校内授業研究の一環として取り組まれてきている事前検討会における教師の対話を通して表出される授業デザインに関する実践的知識を解明すること。

第二に、校内授業研究の事後検討会の意義や効果について明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1)事前検討会

事前検討会における同僚との対話により表出される授業デザインに関する実践的知識を解明するために、F市H小学校の校内授業研究を対象にビデオ、ICレコーダーを用いてデータの収集を行った。収集したデータはすべて文字に起こし、質的分析を行った。

(2)事後検討会

校内授業研究の事後検討会の意義や効果について明らかにするために、F市H小学校の校内授業研究を対象にビデオ、ICレコーダーを用いて2年間にわたりデータの収集を行った。収集したデータはすべて文字に起こし、質的分析を行った。

4. 研究成果

(1)事前検討会

小学校社会科歴史の単元デザイン「新しい日本、平和な社会へ」(戦後の歴史：東京書籍)に関して、5グループ計21名(平均教職経験23年)を対象に研修会を実施し、データを収集した。その対話プロセス及び表出された実践的知識の分析を行った結果、(1)社会科の単元に卓越した熟練教師ほど、過去の経験から獲得された教授方略及び、学習内容と教授方略が融合した複合的な実践的知識(pedagogical content knowledge)を豊かに保有している。(2)複数の教師による対話のプロセスから、単元デザイン作成の文脈上において様々な教授方略が表出され、豊かに単元が検討され実践的知識が交流されていることが明らかとなった。同僚との対話によりデザインを協働で行う場合、個人単独で単元デザインする場合と比べ、5～7倍の実践的知識が表出されていた。(3)各グループ

の作成した単元デザインの展開の仕方や枠組みは、導入の工夫(導入部)、歴史的事象の意味に迫るための探究活動の設定(展開部)、それらの活動を通して深い理解を図るためのまとめや討論を行う(終末部)という流れで全グループにおいて構成されていた。また、取り扱う教科内容は、日本国憲法を柱とした日本の改革、高度経済成長期の国民生活の変化、今日の日本の姿・平和な日本の形成、の3つの内容を柱に位置づけられていた。(4)5つのグループの単元デザインに用いられて実践的知識を整理すると、「A:教材に関する知識」「B:教授方法に関する知識」「C:子どもに関する知識」の3つのカテゴリーに整理された(表1)。単元デザインに活用される場合、A,B,Cそれぞれの知識を単独に用いるのではなく、複合的に関連させ活用されていることが明らかとなった。

表1. 単元デザインに関する実践的知識

A 教材に関する知識	
(1) 単元を構成していく上での具体的な教授方略	学年を超えた単元の系統性の認識と位置づけ 関連のある他教科・他領域の単元との結び付け 単元目標と軸となる課題の設定 単元全体を見通し学習内容の絞り込み 単元で扱う内容の整理と構造化
(2) 学習内容の具体的知識	国民生活の取り扱い、戦後の改革の取り扱い 高度経済成長の取り扱い、国際社会における日本の役割、今後の日本(人)のあり方
B 教授方法に関する知識	
(1) 主体性を引き出す学習活動の設定	インタビュー等の調べ活動の設定 討論発表など表現活動の設定
(2) 理解と思考を深める教授方略	具体物を用いて比較するなど導入の工夫 理解の促進を図る補助資料の活用 問題解決につながる考え・思いを引き出す 主題に導くための発問等・終末部の工夫
C 子どもに関する知識	
	レディネスや既有知識がどの程度か把握・想定する 興味・関心がどこにあるのか捉え、考慮する 生活経験や学習経験の実態

(2)事後検討会

校内授業研究の事後検討会におけるグループ協議における発話を分析した結果、「子どもの表れの事実や解釈」「教師のとった方略や指導の在り方への言及」「問題点の指摘」「代案の提示」の4カテゴリーに分類可能となった(表2)。実際の対話の中においては、参観した授業で捉えた子どもの表れ及び教師のとった行為に関する内容である「子どもの表れの事実や解釈」、あるいは「教師のとった方略や指導の在り方への言及」が基盤となって意見が出され、それを踏まえた上でさらに全体との関連や因果関係において「問題点の指摘」や、問題場面

を再構成する「代案の提示」によって構成されているということが明らかとなった。

また、校内授業研究の事後検討会における対話的な相互作用を通しての教師の学習として以下の3点を確認することができた。第1に、本時のねらいの実現に関して、研究授業における子どもの活動の事実とそれぞれの解釈を重ね合わせていくことで、授業のねらいに則した授業の見方や在り方に関して視点の交流が図られていたこと。第2に、授業における具体的な問題点が指摘され、授業の文脈上に即し多角的な視点から代案が提示され、改善に関する方法について検討が図られていたこと。第3に、発達段階を考慮し、どのようなグループ活動が適切であるかを前提に、これまでの実践経験に基づいた代案を提示することにより、グループ活動に関する授業の在り方や構成の方法について検討が図られ、授業が創造的に再構成されていた。以上の3点が明らかとなった。

表2. 発言者の発言分類カテゴリ

カテゴリー	定 義
子どもの表れの事実や解釈	授業中の子どもの発言やとった行動などの事実確認やその内容や意義について解釈した発言
教師のとった方略や指導の在り方への言及	授業中に授業者のとった方略(手立て)や子どもへの対応・助言等についての事実や解釈した発言
問題点の指摘	子どもの表れや教師のとった方略に関連して、それがどこに根本的な原因があるのかについて指摘した発言
代案の提示	授業で見られたある問題点を取り上げ、それに代わる具体的な改善案を述べた発言

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

- (1) 「同僚教師との協働省察と授業実践の繰り返ししが若手教師の授業力量向上に果たす効果 - 小学校学年部研修に焦点をあてて - 」、小笠原忠幸、石上靖芳、村山功、教師学研究、第14号、pp.13-22、2014
- (2) 「校内授業研究事後協議会における教師の学習に関する事例研究 - グループ協議における対話的相互作用に着目して - 」、石上靖芳、前島純司、黒柳幸夫、

静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇) 第46号、pp.77-89、2014

- (3) 「中学校における校内研修活性化のための校長の経営行動解明に関する質的研究」、石上靖芳、川合公孝、山崎保寿、静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇) 第46号、pp.125-138、2014
- (4) 「校内授業研究の活性化要因が若手・中堅・ベテラン教師の力量形成に及ぼす影響 - 中学校教師への質問紙調査の数量的分析 - 」、教師学研究、第12号、pp.1-10、2013
- (5) 「小学校における校内授業研究が教師の力量形成に及ぼす影響 - 活性化要因の構造的分析和指標の抽出 - 」、学校教育研究、第28巻、pp.38-51、2012
- (6) 「パフォーマンス評価を位置づけた校内研修の意義と効果の検討 - ルーブリック作成過程の対話分析と研修評価の視点から - 」、石上靖芳、小笠原忠幸、三上聡、増田富、相澤秀篤、黒柳友義、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、第20号、pp.231-244、2012
- (7) 「事前研修における実践的知識の表出過程の分析とその効果に関する検討 - 小学校社会科単元デザインの作成過程に焦点を当てて - 」、平松祐、石上靖芳、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、第20号、pp.345-354、2012
- (8) 「授業研究事後検討会の効果に関する検討 - F市立T小学校の校内研修を対象として - 」、小笠原忠幸、石上靖芳、三上聡、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、第20号、pp.245-254、2012
- (9) 「単元デザイン作成過程から表出・創造される教師の実践的知識に関する検討 - 小学校社会科における事前検討会の分析から - 」、三上聡、石上靖芳、小笠原忠幸、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、第20号、pp.255-263、2012

〔学会発表〕(計13件)

- (1) 「国語科教師の授業力量形成に影響を及ぼす効果的研修要因の検討 - 中学校教師への質問紙調査の検討から - 」日本教師学学会第15回年次大会(環太平洋大学) 2014年3月8日、石上靖芳、黒柳幸夫、前島純司
- (2) 「小学校教師の授業力量形成を促す授業実践記録シートの効果 - 学年部研修における若手、中堅、ベテラン教師の省察に焦点をあてて - 」日本教師学学会第15回年次大会(環太平洋大学) 2014年3月8日、前島純司、石上靖芳
- (3) 「国語科教師の単元デザインの構造と授業実践力解明に関する研究 - ベテラン中学校教師への長期的参与観察を通して - 」日本教師学学会第15回年次大

- 会（環太平洋大学）2014年3月8日、黒柳幸夫、石上靖芳
- (4) 「校内授業研究事後協議会における教師の学習に関する検討 - グループ協議における対話的相互作用の分析から - 」日本教育実践学会第16回研究大会（岡山大学）2013年11月2日、石上靖芳、前島純司、黒柳幸夫
- (5) 「省察力を高めるティーチングポートフォリオの効果の検討 - 小学校学年部研修に焦点をあてて - 」日本教育実践学会第16回研究大会（岡山大学）2013年11月2日、前島純司、石上靖芳
- (6) 「ベテラン中学校国語科教師の実践指導力の解明 - 長期的な参与観察の分析から - 」日本教育実践学会第16回研究大会（岡山大学）2013年11月2日、黒柳幸夫、石上靖芳
- (7) 「校内授業研究の活性化要因の抽出とそれが教師の力量形成に及ぼす影響 - A市小中学校教師へのアンケート調査の結果から - 」日本教育実践学会第15回研究大会（兵庫教育大学）2013年11月3日、石上靖芳、小笠原忠幸
- (8) 「事前・事後検討会における教師の授業力量向上に関する検討 - 小学校学年研修の協働的な省察場面に焦点をあてて - 」日本教育実践学会第15回研究大会（兵庫教育大学）2013年11月3日、小笠原忠幸、石上靖芳
- (9) 「グループを主体とした校内授業研究事後検討会の効果に関する検討 - F市立T小学校の校内研修を対象として - 」日本教育実践学会第15回研究大会（兵庫教育大学）2013年11月3日、前島純司、黒柳幸夫、石上靖芳
- (10) 「校内研修「授業研究」における教師の学びに関する検討 - F市T小学校の校内研修を事例として - 」日本教育実践学会第14回研究大会（仏教大学）2012年11月5日、石上靖芳、小笠原忠幸、三上聡、平松祐
- (11) 「授業研究事後検討会の効果に関する検討 - F市T小学校の校内研修を事例として - 」日本教育実践学会第14回研究大会（仏教大学）2012年11月5日、小笠原忠幸、石上靖芳、三上聡
- (12) 「単元デザイン作成過程から表出・創造される教師の実践的知識に関する検討 - 小学校社会科における事前検討会の分析から - 」日本教育実践学会第14回研究大会（仏教大学）2012年11月5日、三上聡、石上靖芳、小笠原忠幸
- (13) 「小学校社会科における単元デザイン作成過程において表出される教師の実践的知識解明に関する事例研究」日本教育工学会研究会（静岡大学）2011年3月5日、平松祐、石上靖芳

6. 研究組織

(1) 研究代表者
 石上 靖芳 (ISHIGAMI YASUYOSHI)
 静岡大学・教育学研究科・教授
 研究者番号：50402227

(2) 研究分担者
 益川 弘如 (MASUKAWA HIROYUKI)
 静岡大学・教育学研究科・准教授
 研究者番号：50367661